

中国のコロナワクチン覇権

「医薬シルクロード」構想に飲まれる日本とアジア 神戸市議会議員・元国会議員政策秘書 岡田裕二

「中国は新型コロナウイルスを利
用して世界の覇権を掌握しようと
している」

米「ワシントンポスト」は20年
11月、コロナウイルスワクチンの
国際展開を進める中国をこのよう
に糾弾した。とくに歴史的に米国
と覇権を争ってきた地域で、その
傾向は顕著だという。

問題の発端は、世界のリーダー
であるべき米国が、中国依存を強
める世界保健機関（WHO）との
関係を悪化させ、かつ自国内のコ
ロナ禍が悪化の一途を辿るなかで、
当面の間は米国製ワクチンの大部
分を自国で使わなければならない
状況にあることだ。米国が世界の
リーダーの座を降り、欧米の製薬
会社が欧州周辺の既存の需要を満
たすだけで手一杯の状態が続く限
り、この問題は解決されない。

コロナワクチンの開発能力がな
い国にとっては、中国製ワクチン

「中国製ワクチンをグローバル公
共財として提供する」

中国の習近平国家主席は昨年来、
国際会議などでたびたびこの表現
を用いている。5月のWHO年次
総会で初めて言及した後、6月の
アフリカ各国の首脳会談でも、9
月のアントニオ・グテレス国連
事務総長とのビデオ会議でも、11
月のBRICS、G20、APEC
と立て続いた国際会議でも、好ん
で「グローバル公共財」という表
現を用いた。他国との「協力を強
化する」とも明言した。

中国分析を専門とするドイツの



中国シノバック社のワクチン「コロナバック」

が命綱となる。それが顕著なのは
東南アジアと中南米諸国だ。

防疫外交からの昇華

中国は逸早くブラジル、インド
ネシア、マレーシア、パキスタン、
エジプトなどでワクチンのアクセ
ス権を提供し、臨床試験を開始し
ている。それだけでなく、コロナ
禍の爪痕深いアフリカ諸国に20億
ドル規模の国際援助を約束したり、
ワクチンの購入費用を支払うこと
が困難な国に10億ドルの融資を約
束したりしている。

ワシントンポストは「この地域
での『ワクチン外交』の成果は火
を見るよりも明らか」とし、東南
アジア諸国やアフリカ諸国がたち
どころに米国から引き剥がされて
いると指摘する。

すでに中国はコロナ禍の初期段
階から、150カ国以上にマスク

シンクタンクのメリクスは、中国
が「一带一路を通じた『デジタル・
シルクロード』と『宇宙シルクロ
ード』に続いて、コロナ禍のなか
で『医薬シルクロード』を開通さ
せようとしていると指摘する。

過去の例を見ても、中国政府は
商業的、外交的利益のために技術
供与を戦略的に利用してきた。中
国はワクチン供給国に対し、今後
あらゆる分野での協力を要求する
可能性がある。これは南シナ海の
紛争問題から中国製機械製品の導
入まで、万事に渡る。

ワクチンの供給を中国に依存す
ることが東南アジアの国々にとつ
て何を意味するのか。昨年10月に
は、マレーシア領海への不法侵入
で拘束された数十人の中国人漁師
の釈放を、中国政府がマレーシア
政府に対し要請したが、この要請
はワクチンの交渉と同じ会議中に
行われた。ニュースポータル「マ
レーシアキニ」では、コロナワク
チンが外交交渉の「人質」にされ
た、とのコメントが相次いだ。
もうひとつの問題は安全性であ
る。中国では昨年7月にワクチン

と防護服、診断キットなどを大挙
支援する「防疫外交」に腐心して
きた。それが「ワクチン外交」へ
と昇華した。苦境に陥った国々に、
中国の差し出す手を拒む理由はな
い。中南米で最も土地が広く、人
口も多いブラジルがその代表例だ。
ブラジルの保健当局は昨年10月、
中国科興控股生物技術（シノバツ
ク・バイオテック）のワクチン「コ
ロナバック」4600万回分の購
入契約を締結。12月にはコロナバ
ックがインドネシアに上陸。1月
中に1800万回分のワクチンが
追加で配備される予定だ。

インドネシアは気候上の条件か
ら「低温流通」が難しい。コロナ
バックは不活化ワクチンであり、摂
氏2〜8度の一般的な冷蔵庫に保
管することが可能だ。一方、米フ
アイザーのワクチンは「メッセ
ンジャーリポ核酸（mRNA）」方式
のワクチンであり、長期的安定性

の緊急使用が許可されて以来、国
内で450万人がワクチンを接種
したが、シノファームワクチンが
条件付きで承認されたのは12月31
日で、それ以外はまだ第Ⅲ相中
だ。試験結果の分析を待たずに緊
急使用許可を介してワクチンプロ
グラムを拡大するやり方は、西欧
では到底受け入れられず、「人体実
験」と言っても過言ではない。ペ
ルーでは昨年12月、シノファーム
ワクチンを接種した臨床試験の参
加者に、足の筋力低下が低下する
などのギラン・バレー症候群に似
た神経性の症状が出たため試験が
中断された。

問われる国家のソフトパワー

一方、日本でも、承認が出てい
ない中国製ワクチンが密搬入され、
企業経営者など富裕層を中心に接
種が行われたと、毎日新聞が元旦
に報じた。報道によると昨年11月、
大企業の社長ら18人が、シノファ
ーム製と推定されるワクチンを接
種したという。当時まだ中国政
府の使用承認がない状態だ。

のため零下70度で保管しなければ
ならない。冷凍設備の完備が難し
い途上国にはハードルが高い。

アラブ首長国連邦（UAE）は
昨年12月9日、中国医薬集団（シ
ノファーム）のワクチンを世界に
先駆けて承認し、このワクチンの
有効性が86%に達すると発表した。
バーレーンもUAEに次いで承認
した。12月24日にはトルコの衛生
当局が第Ⅲ相試験の中間データを
まとめ、コロナバックの有効性が
91・25%に達したと発表。メキシ
コ、モロッコなども相次いでシノ
バックあるいはシノファームとの
供給契約を結び、12月現在で、ア
ジア7カ国、南米5カ国、アフリ
カ3カ国、欧州1カ国の計16カ国
が中国製ワクチンの輸入契約を結
ぶなど、交渉を進めている。

現在、シノバックは年間6億回
のコロナワクチンの生産体制を確
保する計画。シノファームワクチ
ン2種とコロナバックを含む5種
のワクチンが第Ⅲ相を進めており、
中国のワクチン生産能力は最低で
も16億回分に達すると見込まれて
いる。

このワクチンは、中国共産党に
近い中国人コンサルタントが流通
させたことがわかったが、この人
物は昨年9月に中国共産党幹部か
ら「日本での中国ワクチンの支持
を拡大してほしい」との依頼を受
けたという。中国の触手は日本に
まで及んでいる。

「ソフトパワー」概念の創始者で
あるジョセフ・ナイ・ハーバード
大学客員教授は、複数のメディア
のインタビューを通じて「超国家
的危機は、覇権国家の『支配する
権力』ではなく、さまざまな国の
『協力する権力』がなければ解決さ
れない」とし、「時間がかかるだろ
うが、米国がコロナ禍で失墜した
ソフトパワーを復元することこそ
が重要」と指摘した。

コロナウイルスを覇権ゲームの
駒にしてはならない。各国のエゴ
や利害を超えた世界的な連帯こそ、
コロナウイルスだけでなく、21世
紀に人類を襲うかもしれない将来
のすべての疫病や危機に対する備
えともなる。日本政府にも、コロ
ナ覇権競争における国際的戦略・
視座が求められている。